

弟ま地 第 12 号  
令和 7 年 4 月 30 日

内閣総理大臣 殿

弟子屈町長 徳永 哲雄

アイヌ施策推進地域計画 事後目標評価報告書

アイヌ政策推進交付金事業実施要綱（令和元年 9 月 6 日付け府ア推第 5 号）第 3 条第 3 項に基づき、アイヌ施策推進地域計画の事後評価結果について別紙のとおり報告します。

（担当：まちづくり政策課地域振興係）

アイヌ施策推進地域計画 事後目標評価報告書

実施主体名	計画の名称	目標年度
弟子屈町	弟子屈町アイヌ施策推進地域計画	令和6年度

1. 目標の達成状況

アイヌ施策推進地域計画における目標	目標値 A	実績値 B	達成率 (%) B / A	備考
屈斜路コタンアイヌ民族資料館入館者数 (屈斜路コタンアイヌ文化アーカイブ化事業) (歴史的アイヌ民族写真資料保存活用整備事業) (屈斜路コタン地区アイヌ文化等拠点整備事業) (屈斜路コタンアイヌ民族資料館誘客対策事業) (屈斜路コタンアイヌ民族資料館展示解説多言語化事業)	960 人/ 月平均	858 人/ 月平均	89.4%	
生活館利用者数 (多機能型生活館整備事業)	100 人/ 月平均	55 人/ 月平均	55.0%	

アイヌ施策推進地域計画における目標	達成状況	備考
屈斜路コタンアイヌ民族資料館入館者数 (屈斜路コタンアイヌ文化アーカイブ化事業) (歴史的アイヌ民族写真資料保存活用整備事業) (屈斜路コタン地区アイヌ文化等拠点整備事業) (屈斜路コタンアイヌ民族資料館誘客対策事業) (屈斜路コタンアイヌ民族資料館展示解説多言語化事業)	新型コロナの影響により令和2年度以降は入館者数が大きく減少し、コロナ禍が沈静化した令和4年度以降は回復傾向にあるものの、目標値には至らなかった。	
生活館利用者数 (多機能型生活館整備事業)	新型コロナの影響により令和3年度に利用者数が大きく減少し、コロナ禍が沈静化した令和4年度以降は回復したものの、目標値には至らなかった。	

(コメント) ・アイヌ民族資料館については、町の観光入込数と同様に新型コロナウイルスによる国内旅行者やインバウンドの激減で入館者数を大きく減らしていたが、コロナ過が沈静化に向かい始めた令和4年度6月期後半からは徐々に回復し、令和3年度に月平均323人にまで落ち込んだ入館者数が令和6年度は月平均858人となった。 ・多機能型生活館については、コロナ禍の影響等により地域との調整に時間がかかり、当初は第
--

1期計画期間の半ばに整備する想定であったが、整備計画の策定が大幅に遅れたため計画期間満了と同時期の建設となったことから、新生活館の整備による効果検証には至らなかった。

## 2. 目標達成のために実施した各事業の進捗状況と効果

### アイヌ文化の保存又は継承に資する事業

事業の進捗状況	事業実施主体
<p>●令和5～6年度 屈斜路コタンアイヌ文化アーカイブ化事業</p> <p>・屈斜路コタン地域ならではのアイヌ文化を後世に伝えていくため、この地域に伝わるアイヌ文化や地域の歴史の伝承を記録・整理した。</p> <p>●令和5年度 歴史的アイヌ民族写真資料保存活用整備事業</p> <p>・過去に弟子屈町内で行われたヒグマ・シマフクロウ・タヌキのイオマンテの他、美幌町、阿寒町、標茶町など近隣で行われていたアイヌ民族儀礼を中心に記録された個人写真家保有の貴重な写真資料を購入した。</p>	弟子屈町
事業の効果	
<p>・屈斜路コタンアイヌ文化アーカイブ化事業は、第2期地域計画で取り組む事業(アイヌ民族資料館リニューアル改修、文化伝承事業等)における活用を主目的に実施したものであり、アイヌ民族関係者へのインタビューや古式舞踊の記録を行った。展示リニューアル資料の作成では、現在の展示を再構築し、内観の変更など改修へ向けてのイメージを深めることができた。また、文化継承活動では現在取り組まれている活動に焦点を当て、アイヌ民族の人々と共に今後どのような方法で文化を継承していけるかを考え、概要をまとめることができた。</p> <p>・アーカイブ化事業ではコタン周辺の遺構調査も実施し、「クッチャロシペ第一・第二チャシ跡」における地中レーダー探査を行った結果、チャシ跡が存在している可能性が高いことを示す反応が確認できたことで遺構の活用検討に向けた今後の調査への足掛かりを作ることができた。</p> <p>・歴史的アイヌ民族写真資料保存活用整備事業も同様にアイヌ民族資料館リニューアル改修後の展示活用が主目的であるが、当時行われていたイオマンテや近隣市町村で行われていた地域毎の儀礼の様子などは当町の記録の中にも一部しか残っておらず、当時の状況を鮮明に記録していることから資料的価値は高く、資料館の改修時にあわせて効果的な活用方法を検討していく。</p>	

### 観光振興その他の産業の振興に資する事業

事業の進捗状況	事業実施主体
<p>●令和2～4年度 屈斜路コタン地区アイヌ文化等拠点整備事業</p> <p>・屈斜路コタン地域に居住するアイヌの人々との検討を中心に、今後におけるアイヌ文化拠点整備事業の指針となる「屈斜路コタン地区アイヌ文化等拠点整備事業基本計画」を策定した。</p> <p>・上記基本計画による整備事業を進めるための基礎となる測量及び地質調査を実施した。</p> <p>●令和2年度 屈斜路コタンアイヌ民族資料館誘客対策事業</p>	弟子屈町

<ul style="list-style-type: none"> <li>・旅行客車両の往来が多い国道及び道道に誘導案内看板を計3基設置した。</li> <li>●令和2年度 屈斜路コタンアイヌ民族資料館展示解説多言語化事業</li> <li>・増加傾向にあった外国人旅行者等への対応を充実する為に6か国語の音声翻訳による展示解説(ユニホイスコード)を導入した。</li> </ul>	
事業の効果	
<p>・屈斜路コタン地区アイヌ文化等拠点整備事業では、コタン地区全体のゾーニングを踏まえた施設の配置や活用方法について活発な意見が交わされた。また、本計画の策定により地域のアイヌ文化を次世代に継承していく気運も高まり、アイヌ民族有志らによって地域の歴史を掘り起こす動きが出てくるなど、今後は施設整備後の利活用を念頭に置きながら効果的な地域振興策を展開する事が出来る。</p> <p>・コロナ禍直前の令和元年度入館者数(月平均 1,087 人)にまでは回復しなかったものの、外国人入館者数は元年度総数568人から6年度総数916人と、コロナ禍前よりも飛躍的に増加している。この要因としては円安等によるインバウンド旅行者の増加状況に加え、交付金事業により整備した多言語化事業(音声翻訳展示解説)や誘客対策事業(誘導案内看板設置)によるインバウンド旅行者の利便性向上の効果も発揮されたものと考えられる。</p>	

地域内若しくは地域間の交流又は国際交流の促進に資する事業

事業の進捗状況	事業実施主体
<ul style="list-style-type: none"> <li>●令和5～6年度 多機能型生活館整備事業</li> <li>・令和3年度に策定した「屈斜路コタン地区アイヌ文化等拠点整備事業基本計画」に基づく施設整備として、アイヌの人々が多く住む屈斜路コタン地域の生活機能の向上や、ウタリ自然公園の魅力向上によりアイヌ文化の体験・伝承の場の創出を図るため、老朽化が著しい既存の生活館に変わる多機能型生活館を新たなコミュニティ施設として整備した。(令和5年度:実施設計、令和6年度:建設工事)</li> </ul>	弟子屈町
事業の効果	
<p>・整備計画の策定が遅れたために計画期間満了と同時期の建設となったことから、新生活館の整備による効果検証には至らなかったが、新施設の各諸室・機能についてはアイヌ民族関係者へのヒアリング等により今後取り組んでいく文化伝承事業等に有効活用できるものとなっており、また、旧施設よりも格段に広くなった室内は交流の場としても十分に機能することから、アイヌ関連施策を中心とした今後の地域振興に大きく寄与するものと考えられる。</p>	

3. 今後の方針等

(コメント)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1期地域計画策定当初は、計画期間内でのアイヌ民族資料館のリニューアル改修を想定したKPI(アイヌ民族資料館入館者数の増加)を設定していたが、コロナ禍等の事情変更により整備計画の策定に遅れが生じたことから、目標を達成するための中心事業となる施設改修の実施には至らなかった。引き続き、第2期(令和7～11年度)地域計画では資料館のリニューアル改</li> </ul>

修事業を予定し、第1期計画で実施した文化振興事業の成果を存分に活用するなど高い目標設定によるアイヌ施策事業の推進を図っていく。

・改修後のアイヌ民族資料館は季節営業から通年営業を可能とする施設にリニューアルする予定であり、アイヌ民族関係者の通年雇用や、新たに設置するミュージアムショップでの物販や施設周辺での経済活動などに結び付ける効果を期待している。また、踊りやアイヌの昔話をしていた方への謝礼などエカシ・フチ支援の活動にもつなげていく。

・第2期計画ではアイヌ民族資料館と新たに整備した多機能型生活館の機能を連動させる事業を展開することにより、屈斜路コタン地区を道東地域におけるアイヌ文化の重要拠点とすべく更なる振興を図っていく。

**【第三者意見：弟子屈町アイヌ文化等振興事業計画策定町民委員会】**

・KPIとしているアイヌ民族資料館入館者数に関して、「都市圏の学校などは修学旅行の選定等においてこのような場所で学びたいといった話を良く聞く。」「冬季開館の需要は多いと考えられる」といった意見があったことを踏まえ、旅行会社や観光事業者との連携を図るなど、通年開館の実現を見据えた誘客促進策等についても検討を行っていく。

・KPIとしている生活館利用者数に関連して、「新しくなった生活館で古式舞踊を見てもらうなど経済に結び付く使い方もできるのではないかな。隣接する資料館の利用とあわせて文化振興と産業振興の両輪で生活館を有効活用していくことが望ましい」といった意見があったことを踏まえ、アイヌ民族資料館と新たに整備した多機能型生活館の機能を連動させる事業(文化伝承事業、人材育成事業)を展開させることにより、屈斜路コタン地区を道東におけるアイヌ文化の重要拠点として進行を図っていく。